

Economic Indicators

発表日: 2024年3月29日(金)

鉱工業生産(2024年2月)

～生産は2か月連続の低下。事前予想を下回って持ち直しに至らず～

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 大柴 千智 (TEL: 03-5221-4525)

(単位: %)

		鉱工業生産								資本財(除く輸送機械)		消費財	
		生産		出荷		在庫		在庫率		出荷		出荷	
		前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比
23年	1月	▲3.6	▲3.0	▲2.8	▲3.1	▲0.3	2.5	2.1	9.9	▲9.5	▲5.5	▲1.8	0.8
	2月	3.4	▲0.5	3.9	0.7	0.6	1.5	▲1.2	6.0	6.2	2.4	4.4	4.3
	3月	0.4	▲0.8	0.5	0.1	0.2	2.2	0.9	8.6	▲0.7	0.2	0.6	5.8
	4月	0.3	▲0.8	▲0.5	▲1.4	1.3	6.0	1.4	12.7	▲0.8	▲3.4	0.4	4.1
	5月	▲1.0	4.1	▲0.3	3.8	0.6	7.2	1.0	8.8	1.2	2.8	1.1	9.9
	6月	0.9	▲0.1	0.8	0.7	0.0	5.7	▲0.6	9.8	▲0.7	▲1.3	▲1.0	5.1
	7月	▲1.4	▲2.6	▲1.3	▲2.0	0.2	5.5	0.8	9.8	▲2.9	▲10.9	▲0.4	3.4
	8月	▲0.4	▲4.7	▲0.2	▲3.1	▲1.1	3.0	▲0.5	9.2	0.3	▲14.3	▲1.1	1.7
	9月	0.1	▲4.5	0.6	▲2.4	▲0.9	0.0	▲1.2	4.3	▲1.3	▲13.2	1.4	2.4
	10月	1.2	0.9	0.3	0.8	0.0	0.8	▲0.2	4.1	1.0	▲6.8	1.4	7.2
	11月	▲0.6	▲1.6	▲0.8	▲1.7	0.0	0.9	1.5	6.3	▲2.0	▲8.5	▲1.3	3.0
	12月	1.2	▲1.1	1.6	0.2	▲0.9	▲0.5	▲2.3	2.3	6.0	▲2.9	▲0.1	1.0
24年	1月	▲6.7	▲1.5	▲7.5	▲1.7	▲1.7	▲1.8	2.6	0.8	▲4.9	2.7	▲5.2	1.3
	2月	▲0.1	▲3.4	▲0.4	▲4.4	0.6	▲1.7	▲5.5	2.0	▲4.1	▲5.1	▲0.7	▲1.2
	3月	4.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	4月	3.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

(注) 24年3月、4月は、製造工業生産予測調査の数値

○生産は2か月連続の低下。事前予想を下回って持ち直しに至らず

経済産業省から公表された24年2月の鉱工業生産は前月比▲0.1%と、2か月連続の低下となった。事前の市場予想(前月比+1.3%)を下回る弱い結果である。1月は自動車メーカーの生産停止と能登半島地震による一部工場の稼働停止が重なったことで同▲6.7%と大幅に低下していたが、2月も持ち直しには至らなかった。

今月の低下の主要因は、自動車工業で大幅な低下(前月比▲7.9%、前月比寄与度▲1.01%pt)が継続したことによる。12月下旬に発覚した一部自動車メーカーによる品質認証問題を巡り、1月に大きく低下(前月比▲15.9%)した後、2月も工場稼働停止の悪影響が継続した格好だ。なお、同時に公表された生産予測指数による3月の生産計画は、自動車含む輸送機械が前月比+10.9%と大幅な反発が見込まれている。もっとも、自動車工場の稼働再開は段階的であり、1月、2月の落ち込みを取り戻すことは難しい。3月も下振れリスクは大きいだろう。

自動車以外の業種では、上昇寄与の大きかった業種として電気機械(前月比+2.3%、前月比寄与度+0.16%pt)、非鉄金属(前月比+1.2%、前月比寄与度+0.14%pt)等が挙げられるが、前月に落ち込んでいた反動としてはいずれも物足りない結果であり、多くの業種で低調な動きが続いた。自動車工業は裾野が広いことから関連産業へ悪影響が波及していると考えられるほか、海外経済の減速から輸出も低調な動きが続いていることも下押し要因となり、生産は回復感に欠ける動きとなった。



〇1-3 月期は大幅減産が確実

同時に公表された製造工業予測指数は、3月が前月比+4.9%、4月が同+3.3%となった。予測指数の上振れバイアスを考慮した経済産業省の補正試算値でみても、3月は同+4.5%と反動増が見込まれる。1月、2月の低下の主要因であった自動車工業については、2月中旬以降は一部工場が生産を再開しているものの、3月も生産水準を大きく落とした状況が続いている。仮に3月が経産省試算値どおりとして先延ばしすると、1-3月期は前期比▲4.8%となり、四半期での大幅減産は免れない情勢だ。

先行きについて、今後は自動車工場の再開が段階的に進むことで持ち直しに向かうとみられるものの、工場再開ペースには不透明感が強く、4-6月期も悪影響は残る可能性が高い。4-6月期は反動増により一旦は増産へと転じるが、自動車認証不正問題発覚前の生産水準に戻るまでには時間がかかるだろう。加えて、海外経済の減速で財輸出も弱い基調が続いていることから、自動車工業以外でも下押し圧力は強い。当面の鉱工業生産は下振れリスクの大きい状況が続くだろう。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。